

あった。また、この3施設は昨年度と違う施設であることから、バンド指定の際には明確な基準が必要であることが示された。

○北海道における HIV 感染の現状とサブタイプ

澤田幸治，長野秀樹，伊木繁雄，地主 勝，工藤伸一

武部 豊編，厚生科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）「アジア・太平洋地域における HIV・エイズの流行・対策状況と日本への波及に関する研究」平成 18 年度総括・分担研究報告書，国立感染症研究所，東京，平成 18 年 3 月，pp.65-69

北海道における 2006 年のエイズ患者とあわせた HIV 感染者数は 28 名であった。感染経路別では同性間性的接触が HIV 感染者だけでは 65%であった。これらの患者情報と同時にサブタイプについて検討した。

○2006/07 シーズンのノロウイルスによる食中毒事例の発生状況

吉澄志磨，石田勢津子，池田徹也，奥井登代，田中智之

武田直和編，厚生労働科学研究費補助金（食品の安心・安全確保推進研究事業）「ウイルス性食中毒の予防に関する研究」平成 18 年度総括・分担研究報告書，国立感染症研究所，東京，平成 19 年 4 月，pp.81-89

2006/07 シーズンのノロウイルスによる食中毒 18 事例及び感染症 179 事例について分子疫学的解析を行ったところ，食中毒と感染症事例ともに GII/4 型ノロウイルスの検出頻度が非常に高かった。

生物科学部

○エキノコックス成虫 cDNA ライブラリを基盤とした感染イヌ対策法の検討

八木欣平，加藤芳伸，鈴木智宏，孝口裕一，後藤明子

平成 18 年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究 C）研究実績報告書，北海道立衛生研究所，札幌，平成 19 年 3 月
コトンラットに感染させた多包条虫幼虫（多包虫）を実験用ビーグル犬に感染させ，感染後 40 日を経過した虫卵を保有した成虫を用いて total RNA を抽出し cDNA ライブラリーを構築した。そしてその一部について解析を行った。